

シテ・レトル
CITÉ
LETTRE

2024
March
Vol.89 **3**

In order to promote the creation of an attractive Osaka, public and private spheres must link up and work together. The CITE Salon is an organization created as a forum for such collaboration. It was set up in January 1992 as membership organization with the slogan "Vibrant and Attractive Town Building towards a New Era"

リーダーズ・インタビュー

公立大学法人大阪 理事長

福島 伸一氏

総合知を結集し、多様性を豊かに育む、
日本で、世界で輝く、大阪公立大学へ。

広報委員会

第17回CITÉまちづくりシンポジウム/
トークセッション

分科会活動委員会

大阪都市格研究会/ワークショップ報告会/
ソトから見た大阪研究会

研究活動委員会

さろんトーク/プロジェクト見学会/
自主活動プログラム/圏域研究会報告

総務委員会

幹事研修会/親睦ゴルフコンペ/
国内視察研修会/新入会企業のご紹介





総合知を結集し、多様性を豊かに育む、日本で、世界で輝く、大阪公立大学へ。

2022年4月、大阪市立大学と大阪府立大学を統合した大阪公立大学が誕生。2025年秋には、新たに森之宮キャンパスも開設されます。産学官の連携など、社会や地域に開かれた、国際色豊かな大学を目指す大阪公立大学のビジョンについて、公立大学法人大阪理事長福島様にお話を伺いました。

Mr. Shinichi Fukushima
福島 伸一氏 公立大学法人大阪 理事長

生年月日 昭和23年11月13日

昭和46年3月 京都大学 法学部 卒業

昭和46年4月 松下電器産業株式会社(現 パナソニックホールディングス株式会社) 入社

平成9年4月 同社 人事部長

平成15年6月 同社 取締役(人事・総務・保信担当、女性かがやき本部長)

平成17年6月 同社 常務取締役

平成20年4月 同社 代表取締役専務(関西代表)

平成21年4月 同社 代表取締役副社長

平成21年6月 関西国際空港株式会社 代表取締役社長

平成24年7月 新関西国際空港株式会社 代表取締役会長

平成28年6月 株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長

令和5年4月 公立大学法人大阪 理事長(現在に至る)

大阪の知の拠点とし、新しい成長のステージへ

○**森田**: まず理事長の自己紹介をお願いします。

○**福島**: 長崎市で生まれて、高校まで長崎で過ごしました。大学卒業後は、当時の松下幸之助さんの「企業は社会の公器であり、社会の発展に貢献すべき」という考えに惹かれて、パナソニック、当時の松下電器に入社し、40年近く勤務いたしました。副社長職を最後に、2009年に関西空港会社に、そして2016年からは株式会社大阪国際会議場の経営を担当させていただき、2023年から大阪公立大学を設置する法人の理事長に就任しました。

私のモットーは「対話と挑戦」、そして常に「明るく元気に前を向いて」です。大阪公立大学を、日本でも、世界でも輝く大学にしていきたいと考えております。

○**森田**: 理事長は、新たな成長のステージへ向けて5つの戦略項目を挙げておられます。それぞれの項目の具体的な取り組みやその背景、思いなどをお聞かせ下さい。

○**福島**: 本学は、2022年4月に共に100年以上の歴史を有する2つの大学を統合し、2年目を迎えています。私のミッションは、本学を、大阪の知の拠点とし、新しい成長のステージへと大きく飛躍させることだと考えています。

本学は、学生が1万6,000人という、日本最大の公立大学で、12の学部、学域と、15の研究科を擁する総合大学です。その総合知を「可視化」、「見える化」して、教育研究、社会貢献等々の具体的な活動を通して、地元大阪の成長と発展に貢献し、成長を牽引するグローバルな大学となるよう5つのテーマを戦略的、重点的に取り組むことを、就任以来掲げています。

大学における国際競争力の強化を図る施策

○**福島**: 1番目は、「国際競争力の強化」です。これは今後、18歳人口が減少して大学間競争が激化する中、「生き残る」のではなく「勝ち残る」ために必要であり、大きく3つの取り組みを考えています。

1つめは、教育研究の国際競争力を高めること、すなわち「教育研究の国際化」です。海外の研究者を積極的に招聘し、外国人

研究者・留学生を5年後に倍増させたいと考えています。

2つめは、そのための受入環境やインフラの整備です。ビザ申請などの手続きを行う(仮称)国際事務センターを設けて利便性を高め、また留学生向けの宿泊施設を建設し、カウンセラーやコーディネーターの配置も含めて受入体制を整備します。

3つめは、研究成果の海外発信力強化です。現在本学では、海外の200以上の大学と学術交流などのネットワークがありますが、更にそれを充実・強化し、関係を活かして国際共同研究を推進すると共に、『ネイチャー』『サイエンス』等をはじめとする海外有力学術誌に研究論文を積極的に発信していきたい。これにより、大学ランキングアップやブランド力の向上にもつながっていくと期待しています。

以上の3つの取り組みで大学の国際競争力を高め、海外の教員や留学生から選ばれる大学になることで、様々な国籍の教員や学生が集う「多様性あふれるキャンパス/キャンパスの国際化」をめざします。

時代と地域の様々なニーズに応える大学へ

○**福島**: 2番目は、「企業や社会から求められる人材育成・人づくり」です。DXやGX、少子高齢化等、環境が急変する今、社会や企業が大学に求める人づくりも大きく変化しています。デジタル人材、グローバル人材、より高度な専門人材などが求められ、文理融合の時代に向けた人づくりも急務

です。併せて、大学の役割の1つとして社会人教育があります。リスキングなどにも積極的に取り組み、大阪の人づくりの一翼を担うことができればと思います。

3番目は、「多様性ある、魅力ある大学づくり」。同質なメンバー、同質な価値観の中からは、新しいものが生まれません。多様な年齢層、性別、人種など、多様な人材、多様な組織運営、多様な価値観。そうした環境にあって、初めて新しいものやイノベーションが生まれます。受験生や保護者、学生、教職員にとって、いつもワクワク・ドキドキする、常に何か新たな学びと成長のきっかけがある、そして楽しいキャンパスライフがあるなど、魅力ある大学をつくりたいと思います。

そして、4番目が、「産学官民の連携」と「スタートアップの育成創出」です。一昨年からイノベーションアカデミー事業を実施して、スマートシティなど5つの共創研究ユニット×AIのテーマで実証実験、社会実装へとつなげ、産学官民で共創する社会課題解決にチャレンジしていきます。すでに具体的な成果も上がりつつあり、今後さらに行政や民間企業との連携を深めていきたいと考えています。もう1つはスタートアップの育成創出です。今後さらに強力に推進するため、来年4月から大学から一貫通貫でスタートアップを育成創出する組織を立ち上げて加速したい。事業計画書の作成の仕方や知財に関する知識等のサポート体制を整え、スタートアップの支援を図っていきたく考えています。

5番目は、「都市シンクタンク機能」の強化です。行政がめざす大阪の都市像や社会

5番目は、「都市シンクタンク機能」の強化です。行政がめざす大阪の都市像や社会



課題は何か。そして本学に望まれるものは何か。社会課題解決について政策提言を行うなどの取り組みを強化していきたいと思います。公立大学ですので、大阪の成長と発展に寄与するミッションもあります。少し具体的な事例では、大阪府が実践しているORDENというプラットフォームに本学の「総合知」を連携させて、大阪がめざしているスマートシティなどに貢献したいと考えます。

また、本学の多様で様々な研究シーズ、すなわち総合知を活かして、行政、民間、大学が三位一体となって、現在検討が進んでいる大阪城東部のまちづくりにも寄与できればと考えています。大学としてはその第1弾に、2024年の秋に森之宮に様々な人が集えるスペースとして、オープンラボとラウンジをつくろうと計画しています。また、森之宮キャンパスがオープンする2025年の秋には、本格的な「シンクタンク研究所(未来社会創生研究所・仮称)」を開設する予定で、世界中の様々な人に来てもらい、国際的な大都市問題を解決する国際フォーラムを開催したいとも考えています。そして、世界の課題解決にも寄与する「大阪モデル」を創出し、全世界に発信したいと考えています。

「戦略的な情報発信」と、「本学のブランド構築」が大切

○森田:5つの大きな柱となる項目を伺いましたが、それらが相互に連携するために

は、どのような取り組みが重要になりますでしょうか。

○福島:この5項目を推進していく上での取り組みにさらにプラスワンとして加える取り組みが、「戦略的な情報発信」と、「ブランド構築」です。本学では様々なことに取り組んでいますが、まだまだ知られていないので、行政や民間企業、そしてメディアの皆さまに、戦略的に情報を発信していきたい。さらに、「大阪公立大学」という日本語のネーミングのみならず、「OMU/Osaka Metropolitan University」としてブランド化を図ります。ブランド構築とは、総じて言えば、大学の魅力づくりだと思います。これまでの大阪府立大学、大阪府立市立大学は関西では高く認知されてきましたが、5年以内に日本有数の大学へと成長したい。そのためにみんなで新しいことにどんどんチャレンジしていこうと呼びかけ続けています。

そのための1つとして、先ほど話しました『サイエンス』や『ネイチャー』などの海外科学雑誌への掲載は有効なアクションです。しかし情報過多の時代、情報が届くこと、知っていただくこと自体が難しい。そこで、届けたい方々に向けてこちら側から積極的に発信していくよう努めています。また、大学には教育、研究、社会貢献、都市シンクタンク、技術インキュベーションなど様々な強みがありますが、特に伝えたい、届けたい強みを何にするか、特に誰に対してどうしてもらいたい大学であるかを定める。これこそがブランド戦略です。そういった検討の中で動画など若年層がよく触れる媒体

や、学生の活力を活かした情報発信などは非常に重要です。例えば、森之宮キャンパスの情報発信では動画を用いています。

○森田:新しいイメージ映像を拝見しましたが、見ているととてもワクワクします。



○山田:先ほどお話しされていました「シンクタンク研究所」には、様々な国の人や地域の人が集う。そうした活動を通じた地域との交流がこれからとても大事になってきます。新キャンパス予定地の森之宮は、大阪の中心部に近く、とてもいい立地環境で、大阪としても注目が集まっています。

○福島:キャンパスが都心、すなわち大阪の真ん中にあるインパクトはものすごく大きなものです。森之宮キャンパスは、大学の魅力向上、競争力強化にダイレクトにつながると考えています。2025年秋にオープンする森之宮キャンパスを、私は本学の中核キャンパスに位置付けています。ここでは2つの大きな役割、約6,000人の学生、教職員が集う「教育研究拠点」とし、産学官民共創と都市シンクタンク機能の「ヘッドクォーター拠点」とする予定です。本学が持っている「総合知」をベースに、社会の成長、発展に寄与する行政や企業との連携の場、そしてスタートアップの育成創出の場にしたい。「都市シンクタンク機能」を実現するには「まちなか」である森之宮がベストだと思っています。

「大阪・関西万博」への参加と大学の役割

○森田:2025年といいますが大阪・関西万博を迎えるわけですが、大学としては万博をどのように位置付けていらっしゃいま

すか。

○福島:日本が誇るデジタル技術やヘルスケア、モビリティなど、近い将来のテクノロジーを実証実験して、社会実装につなげていき、今後の大阪、関西の成長を推し進めていくことが、この度の万博の位置づけであると思います。また、大阪、関西が誇る食文化などの多様な文化の魅力を全世界に発信する絶好の機会でもあります。2,800万人が来場されるとのことですが、そのうち外国人は350万人とも言われています。地元にある大学として海外から来られた人たちに本学をPRするいい機会にもなると期待しています。

○山田:そうですね。森之宮キャンパスオープンと万博開催の年がちょうど重なりますから。

○森田:万博への取り組みと万博における大学の役割についてお伺いしたいのですが。

○福島:まず、大学として唯一の企業との共同パビリオンを、飯田グループホールディングスと一緒に出展します。また会場の全体運営には多くのボランティアが必要となりますので、今、本学の先生たちがボランティアリーダーの育成プログラムに取り組んでいまして、万博開催年までに約150名を育成する予定です。合わせて、医学部附属病院を中心に救護所や介護所の運営にも寄与したいと考えています。



地域社会と呼吸し、共生する大学をめざす

○森田:森之宮に新しいキャンパスがオープンすることで、今後、学生がさらに増えて、様々な交流も生まれてくると思われま



が、そうした中、まちづくりにも多分に影響があると思います。まちづくりの観点から何か展望などあればお聞かせいただけますでしょうか。

○福島:森之宮キャンパス周辺には、大阪城や難波宮があり、歴史博物館もある。その大阪城東部のまちづくりを様々な皆さんと一緒に考えていきたいと思います。歴史、文化、エンターテインメントからスポーツまで、非常にポテンシャルが高いエリアです。そこに数千人の学生が集う大学ができることとなりますので。地域の皆さま方とともに、まちづくりの一翼を担い、貢献できればと思っています。まちづくりについては、ぜひ「CITÉさろん」の皆さんとも意見交換を重ね、ご一緒に取り組んでいけたらと思っています。オール大阪で、知恵と力を結集できるといいですね。

○山田:ご一緒にコラボレートして、大阪にとどまらず関西の発展に貢献できたらと思います。

○福島:大阪、関西には、世界中の人が憧れる個性豊かな「まち」が沢山ありますが、それぞれのまちの魅力をいかに高めるかが大切です。まちには5つの大切にすべき要素があります。「訪問したい」、「住んでみたい」、「学びたい」、「働きたい」、「起業したい」。この5つがキーワードです。それらに取り組むことにより、魅力あるまちになっていくと思います。

そうした意味でも、大阪の公立大学として、地元の成長を牽引するような大学になりたい。社会と「呼吸」し、行政や民間の皆さまと協働する。その結果として地域を含めた社会の役に立つことができると。そうすれば、国内外から沢山の優秀な学生が来ていただけると思います。

本学は大阪府内に複数のキャンパスやサテライトがありますが、それぞれの地域の発展に貢献できる大学でもありたい。大阪をはじめ、社会に開かれていて、地域社会と呼吸し、共生して、社会の皆さまから評価される。そういう大学がくれたらいいなと思っています。

○森田:知恵だけではなく、体も動かして、ぜひ一緒に地域に貢献できるような活動ができればと思います。

○山田:ありがとうございました。



インタビュー | CITÉさろん 広報委員会委員
山田 健介氏
三和電気土木工事株式会社
営業本部 営業推進部長
CITÉさろん WSメンバー
森田 佳宏氏
中央復建コンサルタンツ株式会社
計画系部門総合政策グループ統括リーダー

取材日 | 2023年12月7日(木) 11:00~12:00

※新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受けて、マスク着用を行わずにインタビュー及び撮影を行いました。

第17回 CITÉまちづくりシンポジウム 大阪都市格を再定義 ～多極連携時代の新たな価値～



▲ 松本副会長より開会挨拶

基調講演では、多極連携時代における大阪への期待と可能性を先進事例等も交えてお話をいただいた。その後のパネルディスカッションの冒頭では、コーディネーターの関西学院大学 角野 幸博教授から10年続いた「大阪都市格研究会」の成果を発信いただいた。その後、講師各自の視点から大阪の魅力である多様性や評価軸の再定義について発言いただき、大阪が西日本をリードする都市となること、大阪の多様な魅力の伝え方や大阪が自ら新たな基準を作ることの提案等、貴重な議論を交わすことができた。

基調講演

これからの日本における多極連携 ～先進事例と大阪・関西への期待～

見坂 茂範氏
国土交通省近畿地方整備局長

全総から国土形成計画へ

これまでの国土計画の変遷を振り返ると、昭和37年に全国総合開発計画(全総)が作られ、その後、平成10年に第5次の「21世紀の国土のグランドデザイン」が策定された。全総では将来ビジョンのもと、実現に向けてどういったプロジェクトを具体的に進めていくのかを描き国全体で進めてきた。

その後、平成17年に国土形成計画法が公布され、同法に基づく国土形成計画を平成20年、平成27年に策定した。

国土形成計画の前提となる我が国の総人口の長期的推移をみると、2008年をピークに減少局面に入っており高齢化がますます進展する。これからの国の将来を考えるにあたり、人口減少の中で国がどうあるべきなのかといったことを考えていかないといけないが、人口が減っていくことは悪いことばかりではない。G7のうち、人口が1億人を超えているのは米国と日本だけだ。

必ずしも人口減少を悲観的に捉えるのではなく、適正な人口規模で国の在り方をどう考えていくのかを考えていくことが、これからの国土計画の在り方。



東京圏への転入超過の推移を大阪圏、名古屋圏、地方圏との比較で見ると、東京圏への転入超過がここ20年ぐらい続いている。大阪圏と名古屋圏は横ばい。2050年の将来の人口増減状況を1kmメッシュベースでみると、全国の約半数で人口が50%以上減少し、2割ぐらいは無居住化する。

これが日本の今としては避けられない将来的な流れである。

地域力をつなぎ、国土を連結

昨年7月28日に閣議決定

された3回目の「新たな国土形成計画(全国計画)」

では「新時代に地域力をつなぐ国土」と「シームレスな拠点連結型国土」が2つのキーワードとなっている。日本列島は大きくは4つの島からなる南北に長い地形であり国土全体で各地の連結強化を図る必要がある。防災・減災の観点に加えて防衛や安全保障の観点からも日本列島を連結することが重要だ。リモートで言うだけでなくリアルに道路や橋でつなぐことであり、島国の連結をもう一度強化することが防衛上も重要という観点を組み込んでいる。この全国計画をもとに地方計画もブロックごとに作っていくことになる。



「シームレスな拠点連結型国土」の構築に向けた全国的な回廊ネットワークの形成では、日本海側と太平洋側を2面活用により内陸部を含めた全国の連結強化を目指す。太平洋側は東京、名古屋、大阪の三大都市圏がリニアでつながり発展(日本中央回廊)していくが、一方で日本海側をつなぐことも防衛上を含めて国土政策上、重要である。今の世界情勢を考えると日本海側の強化は必要。

三大都市圏で生まれた富を地方活性化につなぎ、地方での生活圏維持については、遠隔診療の導入や地域での自動運転導入等を推進する必要がある。たとえばスローモビリティを使った自動運転ニーズは地域で増えていこう。また、スマート農業、ドローン技術の活用

2024年2月6日(火) 16:00～18:00 ホテル阪急インターナショナル 6階瑞鳥

◆開会挨拶(16:00)／松本 利典氏(CITÉさろん 副会長)

◆基調講演(16:05～16:45)

「これからの日本における多極連携 ～先進事例と大阪・関西への期待～」／講師：見坂 茂範氏(国土交通省近畿地方整備局長)

◆パネルディスカッション(16:55～18:00)

「大阪都市格の再定義から未来へ ～多極連携型国土における大阪の多様性の価値～」

コーディネーター：角野 幸博氏(大阪都市格研究会座長・関西学院大学建築学部教授)

パネラー：茶田 誠一氏(みちトラベルジャパン株式会社 代表取締役)

澤田 充氏(株式会社ケイオス 代表取締役)

寺本 譲氏(大阪市計画調整局長)

見坂 茂範氏(国土交通省近畿地方整備局長)

◆閉会挨拶／高宮 紀子氏(CITÉさろん 広報委員会委員長)



等により、地方のありようを少し変えた形でこれからの地方生活圏を作っていく等の理念を今回の計画では盛り込んでいる。

国土形成計画の中での関西



現在、国土形成計画の中で関西をどう整備していくかについて、近畿地方整備局を中心に議論を進めている。関西は自然環境に恵まれ、京阪神大都市圏に人口が集中した地域である。経済規模は関東圏に続いて2番目だが、域内総生産の伸び率は関東圏や中部圏よりも鈍い。神戸港はかつて世界で5番目の貨物取扱量を誇っていたが、今はそうではない。道路をみると関西圏は首都圏と比べると高規格道路のミッシングリンクが多く、道路整備率が全国平均より低い。首都圏や中部圏と比較すると道路のインフラ基盤が整っていないことも経済格差につながっていると考えられる。

関西の強みに目を向けると健康医療やエネルギー分野をはじめ大学や研究開発拠点が集積し、首都圏程ではないがコンテンツ産業も一定集積する。ニッチ分野で世界的シェアを有する様々な企業もある。神戸港でのカーボンニュートラル実現に向けた産官学連携等の先進的な取り組みに加えて、歴史的文化施設も豊富で他地域にはない観光資源を抱える。



ビッグプロジェクトも目白押しでうめきた2期、北陸新幹線の敦賀延伸、大阪・関西万博等が相次ぐ。新名神高速道路の全面開通、なにわ筋線の開業、リニア鉄道の開通、大阪港・神戸港の強化も進めている。道路のミッシングリンクをつなぐと共に、長期的には御堂筋の全面歩行者空間化や淀川舟運活性化等の取り組みも進めている。

これらの点を取り込み、新たな関西広域地方計画の取りまとめ作業中だ。関西ダイアログ2024を通じて関西の若者の意見に耳を傾ける取り組みを行い、2024年夏ごろに公表したい。大阪を中心とした関西だけでなく、より広域的なネットワーク、例えば山陰、北陸、中部、四国とのつながりも考えながら西日本の中心として、西側の玄関としての役割を果たすにはどうあるべきなのか、そのためにはインフラをどのような優先順位でどのように働きかけるのかを関西広域地方計画で示したいと考えている。



パネルディスカッション

大阪都市格の再定義から未来へ ～多極連携型国土における 大阪の多様性の価値～

コーディネーター：角野 幸博氏

パネラー：茶田 誠一氏・澤田 充氏・寺本 譲氏・見坂 茂範氏

冒頭、大阪都市格研究会の座長を務めていただいた角野氏から研究会のこれまでの成果について報告いただいた。

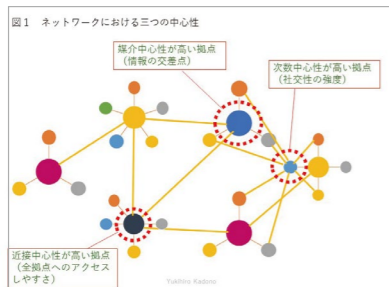
●—— 大阪都市格研究会のこれまでの成果とこれから (角野氏)



都市格研究会の始まった10年前は、全国で都市再生事業が進展し、世界では大都市の都市間競争が熾烈になった時代であり、今後の大阪はどうかを考え続けた10年であったと報告された。都市格は、今から99年前の1925年に大阪都市協会が設立された際に始めて議論され、1995年には当時の大阪商工会議所会頭の大西正文氏が『都市格について 大阪を考える』という本を出版された。先人から学び、平成25年度から10年間、2年1クールで活動してきた経緯について紹介があった。

第1期における都市格とは何か？議論から始まり、「大阪からつなぐ」をテーマにした第2期(北前船やLCC等)、インバウンド増の中で注目を集めたディープ大阪を探访した第3期、海外から見た大阪のホットスポットを土地格レベルで探った第4期、スポーツをテーマに取り上げた第5期(スポーツを公共空間に組み込む提案、eスポーツの見学体験)の内容等、各地を歩いて回った大人のワークショップとしての実施内容が報告された。

大阪の多様性に満ちた都市格をどう伝えるかが今後の最大の課題であり、空間デザイン、産業デザイン、市民活動デザイン、コミュニケーションデザインの4つのアプローチがあるとコメントされた。大阪の多様性は「ロングテール」であり、誰もが思い浮かべるイメージに加えて長い尻尾の先に実は多様な魅力があること、大阪の地域力として「つなぐ力」を考えていく必要があると発表され、ネットワーク拠点の3タイプについて報告された(図参照)。大阪の多様性を活かせば、外部×内部の多局性×多様な連携相手の掛け算でネットワークを無限に作り出すことができると成果報告をまとめられた。



次に、3人のパネラーから各自のテーマに沿って話題提供をいただいた。

●—— 大阪と海外富裕層ニーズをつなげる (茶田氏)

茶田氏は海外からの訪日客向けにテラーメイド型の旅行会社を創業し運営されている。コロナ禍後、インバウンド客が戻ってくる中で自己実現や知的な面での刺激を得たいという富裕層のニーズは増えており、大阪もリピーターにロングステイしてもらい、ファンを増やしていくことを考えるべきだと提案があった。富裕層旅行に求められる要素として①本物さ、②独自性、③ローカル、④快適の4つが挙げられ、大阪の可能性として美食が挙げられた。また、フレンドリーで明るい大阪人は大阪の魅力になり得るとコメントされた。



●—— 大阪のまちをリ・ブランディング
～評価軸再定義の提案～ (澤田氏)

澤田氏からは、人間は頭の中で定義をしたものに対して行動を起こす特性があり定義を変えると行動が変わる、その例として北海道の日本ファイターズ「北海道ボールパークFビレッジ」の例が挙げられた。球場でなく「ボールパーク」であり、家族がそれぞれに野球文化を体感できる広場、楽しむ場所、居場所と再定義したことになる。また、今、モノが売れない時代にあって売れている店は環境活用型(森、公園、海、歴史的建築物、アート等)であり、こういうことをやれる人が集まるネットワークを組めば大きなまちの魅力になると話された。

●—— 持続的で活力と魅力あふれる大阪をめざして (寺本氏)

寺本氏からは大阪は関空、新幹線、高速道路広域基盤をもとに機能が集約されて国土軸につながっており、将来的には東京、名古屋とリニア中央線、中央新幹線あるいは北陸新幹線といった広域基盤ネットワークがつながることが紹介された。その上で、大阪の都市の中ではキタ・ミナミに続きニシ・ヒガシがつながっていくと紹介があった。外の接続と市内の整備により大阪は世界から関西への接点となる中心として求心力のある都市としての役割を果たせるとのこと。産業等の成長戦略と都市インフラの整備を合わせて進めていること、鉄道ネットワーク、高速道路ネットワークの整備状況や南北軸と東西軸に関する市内各地の主なプロジェクト等の紹介があった。



その後、ディスカッションについてはコーディネーターからパネリストへの一問一答形式で進められた。見坂氏からは、西日本のリーダーとしての大阪というポジションをこれから獲得すべきだとコメントがあった。茶田氏からは、もともと親が仕事で来て面白かったと子供に話すとアニメ等の別の視点で子供も日本に行きたいとなることが多く、大阪へのビジネス客も同様であるとコメントされた。また、海外富裕層の家族で過ごす旅行への強いこだわりについて紹介された。澤田氏からは、大阪は効率性よりも余白や少しの隙を大切にす文化であり、非常に近い距離でコミュニケーションができたりする特徴があるため、そこが生きる路地、ウォークアブルさ、余白の空間の面白さや多様性に魅力があるとコメントがあった。寺本氏からは、計画的に違う個性を作るのは難しいものの、出来上がったものをみるとビルや広場でも梅田・難波・御堂筋でどこか違うイメージがあるとして、市内各地で撮影した写真を見ながら各地の取り組みの紹介があった。今後、各地の取り組みのアピールに力を入れることが重要と考えているとコメントされた。



●—— パネラーからのメッセージ

最後にパネラーからメッセージを頂戴した。見坂氏からは大阪の多様性について作ってできるものではなく大阪人の包容力や受け入れる風土を活かし、西の中心都市としての大阪の魅力発信をというメッセージを、茶田氏からは世界中の人が大阪をリピートしてくれるまちを目指す上で大阪の包容力は強みになること、大阪は日本で一番フレンドリーなまちだという印象を持って帰ってもらうことを目指してはどうかとのメッセージを頂戴した。澤田氏からは大阪が「胴元」になろうという力強いメッセージを頂戴した。ランキングを「作る側」になり、レストランなら店主の個性や居心地を評価して大阪発のガイドを作り、他者基準でなく基準やルールを決めていく側に大阪がなればいいとの提案があった。寺本氏からはインフラ整備の公益的な事業は行政で、拠点開発は民の皆様と共に進めており、その良さを大阪に住む人、大阪にいる人が自信を持って発信できるようなまちづくりを進めたいとのメッセージを頂戴した。最後に、コーディネーターの角野氏から、大阪の都市格を再定義することに加えて大阪そのものを再定義する必要もあるのではないかとコメントされた。空間的な広がり、経済的な広がり、文化的な広がりを含めて大阪の再定義がテーマになってきたと感じていること、国内・海外を含めてネットワークとしての大阪とは何かを考えていききっかけになったとまとめがあった。



▲ 高宮委員長より閉会挨拶

ご登壇者のご紹介



コーディネーター・パネラー
角野 幸博氏
大阪都市格研究会座長・
関西学院大学建築学部
教授

関西学院大学建築学部教授。1955年京都府生まれ。1978年京都大学工学部建築学科卒業、1980年同大学院修士課程修了。1984年大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。(株)電通、武庫川女子大学教授等を経て、2006年関西学院大学総合政策学部教授、2021年より現職。工学博士。一般建築士。近者に「鉄道と郊外 駅と沿線からの郊外再生」等。



パネラー
茶田 誠一氏
みちトラベルジャパン株式会社
代表取締役

奈良県生まれ、大阪、京都で学生時代を送る。日本政策投資銀行勤務を経て、2006年に同社創業以来、パーソナライズされた旅行体験を求める訪日外国人旅行者ニーズに対応。全国で、行政向け、企業向けに観光コンサルティングも実施する。



パネラー
澤田 充氏
株式会社ケイオス
代表取締役

街づくりや街ブランディングを業務とする株式会社ケイオス代表。株式会社リクルートを経て独立。淀屋橋WEST、新丸の内ビルディング、KITTE丸の内、グランフロント大阪ショップ&レストランをプロデュース。創業30周年を迎えた今年、京都にてワイナリー併設レストラン運営も自ら手掛ける。



パネラー
寺本 譲氏
大阪市計画調整局長

1965年生まれ。大阪市立大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了。1991年大阪市入庁、2009年計画調整局計画部幹線道路担当課長、その後、空港等広域計画担当課長、都市計画課長、建設局東部方面管理事務所長、都市計画局開発調整部長、都市計画局計画部長、都市計画局理事(阪神高速道路株式会社派遣)を経て、2021年11月より現職。



講師・パネラー
見坂 茂範氏
国土交通省
近畿地方整備局長

1968年兵庫県生まれ。1993年京都大学大学院工学研究科土木工学専攻修了。1994年建設省入省。道路局高速国道課長補佐等を経て近畿地方整備局京都国道事務所長、その後、道路局企画課企画専門官、大臣官房技術調査課技術企画官、福岡県国土整備部長、関東地方整備局企画部長、大臣官房技術調査課長を経て、2023年7月近畿地方整備局長就任。

トークセッション

第01回

海外インバウンド富裕層の日本の見方、その延長線上にある「持続的に選ばれるまち」とは

2023年10月17日(火) 17:00～18:00
 講師: 茶田 誠一氏
 (みちトラベルジャパン株式会社代表取締役)
 会場: 大阪府立中之島図書館(別館)多目的スペース3



令和5年度のトークセッションは大阪都市格研究会との合同企画として実施し、第1回目は海外富裕層の目線で大阪を見つめ直してするために、みちトラベルジャパン株式会社の茶田様をお招きしてトークセッションを開催した。

前半は茶田氏より、インバウンド富裕層向け旅行企画の経験に基づき、大阪の可能性について講演いただいた。茶田氏によると訪問者数の増加は緩やかでも継続的に「地域が稼げる」訪日旅行の促進のためには、特に富裕層にリピートで支持される目的地になることが不可欠で、人気の源泉となる持続的な魅力を追求し続け、都市や地域レベルでも意識して取り組むことが肝要とのこと。外国人には「地元の人と楽しむユニークな大阪」も人気であり、エキスパートツアーができて地元で感度が高い人の楽しみ方・コンテンツが世界中の富裕層に知られていけば、大阪の魅力は大きく向上するということがあった。

富裕層向けに長期滞在しやすい「生活型」観光は経済効果も大きく「生活するような旅行者」の目線で大阪を捉え直すことの提案があった。今後は、インバウンド観光の主役となるリピーター目線での観光政策、生活者目線での都市の魅力・文化を大事にし、富裕層向けにアート、ナイトライフ、ハイクラスなホテルの充実が重要との解説があった。

後半は、関西学院大学建築学部教授の角野 幸博氏をコーディネーターに質疑応答やディスカッションを行った。

(文責 株式会社ダン計画研究所)



第02回

大阪のまちをリ・ブランディング～評価軸再定義の提案～

2023年12月5日(火) 17:00～18:30
 講師: 澤田 充氏
 (株式会社ケイオス 代表取締役)
 会場: 北浜ビジネス会館 3階大型室



第2回目は都市の評価軸の再定義と、大阪の都市格を未来に向けてどのようにリ・ブランディングするかをテーマに、株式会社ケイオスの澤田様をお招きし、トークセッションを開催した。

前半は澤田氏より都市の評価軸の再定義と大阪の可能性についてご講演いただいた。澤田氏は、正解のない時代である現代では新たな定義が必要であり、大阪が「胴元」となり基準を提案することが重要だとコメントされた。使い手の視線で見るとメディアが伝えるようなコテコテの大阪以外にも多様な大阪が見えてくる、アイデンティティの明確さも「格」であり、主役によって見え方が異なるなら「都市格が豊かなまち」という言い方もできるとのこと。

また現代は「知縁」ともいえる弱い紐帯(価値観、ライフスタイル、フィロソフィ)でつながる時代であるというお話もいただいた。知縁で人とつながるとイノベーションが起これ、そこからさらに知縁をつなぐと次の進化が生まれ、出身地と居住地、都市と地方、大阪とどこかを行き来する中で出てくる縁が大切と自らの経験から語られた。

多様な評価軸によって発見される魅力が豊かにあるはずであり、「こういう見方をすれば面白いでっせ」と大阪流の都市評価軸を提案してはどうか?と澤田氏から提案があった。

後半は、関西学院大学建築学部教授の角野 幸博氏をコーディネーターに、質疑応答やディスカッションを行った。

(文責 株式会社ダン計画研究所)



大阪都市格研究会

9/21 Thu

大阪都市格研究会の10年～研究成果レビューと再提案～
 バーチャルとリアルな“場”の融合を考える
 ～テックエンジニアからの提案～

2023年9月21日(木) 16:00～18:00
 講師: Xin Suzuki氏 (GONENGO LLC CEO)
 会場: 大阪府立中之島図書館(別館) 多目的スペース3

大阪都市格研究会のこの10年の成果レビューと再提案をテーマに、ゲストにGONENGO LLC CEOのXin Suzuki氏をお招きして第1回セミナーを開催した。

最初に、大阪都市格研究会座長である関西学院大学建築学部教授の角野 幸博氏より、プレ大阪・関西万博とポスト大阪・関西万博を見据えた大阪のまちづくりについて講演いただいた。

続いてSuzuki氏よりバーチャルとリアルな“場”の融合として「まちづくりDX」の事例紹介や大阪での課題と展望についてご講演いただいた。リアル世界での課題への処方箋として、バーチャルの世界に余白を見出したVRChatでの事例や、リアル空間をメタバース化するサービス、オンラインで地方コミュニティ同士をつなぐイベント等について紹介いただいた。

まちづくりDXは、新たな価値創出や課題解決を目的にDX化によって人間中心のまちづくりを実現するものだと説明があり、その先進事例をご紹介いただいた。今後は、まちづくりを自分ごととして捉えまちづくりDXを体現できる人材を増やしていくこと、さらに、まちが人を育てるエコシステムの構築＝ソーシャル・キャピタルの醸成が重要であるとのことであった。

最後に「大阪都市格の再提案に向けて」というテーマで、角野座長とSuzuki氏でディスカッションを行った。

(文責 株式会社ダン計画研究所)



11/17 Fri

つながるオープンファクトリー訪問& デザイン目線でとらえ直す大阪都市格
 第1部 こーばへ行こう! 実体験
 第2部 MOBIO展示見学+講演&議論 大阪の都市格 発信を考える ～デザイン目線でとらえ直す大阪都市格～

2023年11月17日(金)
 講師: 森永 耕治氏 (共和鋼業株式会社 代表取締役)
 【第1部】15:00～16:00【第2部】16:30～18:00
 会場: 【第1部】共和鋼業株式会社工場
 【第2部】MOBIO集合後、クリエイターズプラザ 技術交流室A

第1部ではオープンファクトリー訪問体験として、東大阪市が推進するオープンファクトリー「こーばへ行こう!」東部エリアに参加する共和鋼業株式会社工場にて、特別見学会を実施した。参加者は2班に分かれ、ひし形金網が作られる現場を見学し、ワークショップとして5色の線から好きな組み合わせを選び、ひし形金網の小物かけ作りを和気あいあいと体験した。



▲講師: 森永 耕治氏

第2部ではMOBIO展示を見学後、共和鋼業株式会社の森永社長より、デザイナーや大学との協業事例としてひし形金網の特徴を活かしたプロダクトや用途開発への取組等の紹介をいただいた。

同社は「自立性」「素材を見つめ直す」「発信」をキーワードに新たなものづくりに取り組んでおられ、チーム東大阪オープンイノベーションや「こーばへ行こう!」等のプロジェクト事例、デザイナーや大学とのコラボ実績等をご紹介いただいた。デザイン経営セミナーの参加時に、自らの内側にあった想いを言語化してアイデンティティ・ビジョンを作成されたこと、現状を認識した上での切迫感や強烈な反省が、オリジナル商品開発等への新規事業への取組のきっかけとなったこと等についてもお話しいただいた。

最後に、大阪都市格をデザイン目線でとらえ直すことをテーマに、大阪都市格研究会座長である関西学院大学建築学部長教授の角野 幸博氏と森永氏、参加者を交えてディスカッションを行った。

(文責 株式会社ダン計画研究所)



ワークショップ報告

コロナ禍の2022年秋、在宅勤務も普通の時にWSが始動しました。座長の先生方のテーマを勉強し、各自考察を進めWSで議論し、WS内の班単位で視察や情報収集による検討を深め、内容を詰めて漸く数々の提案を報告書に取りまとめることが出来ました。

WS
1

価値変化に伴う移動の本質を再考する

座長: 吉田 長裕氏
大阪公立大学大学院
工学研究科准教授
参加者: 25名

ワークショップ1では、「価値変化に伴う移動の本質を再考する」をテーマに、6つの小グループに分かれて議論を積み重ねてきました。最終的には3つのグループに再構成し、「本源的・派生的需要に対応した新しい“Osaka MAAS”の提案」「自動運転を活用した歩行者に優しい街づくり～大阪らしさを活かして～」「公共空間と交通水辺と交通機関を活用した外国人観光客のさらなる誘客」という題目で報告書が提出されました。その過程では、様々な事例の視察だけでなく事業者へのヒアリング調査も行っており、現場の課題に基づいた提案になっています。ハイライトは、交通に関する様々な特徴を、本源的需要と派生的需要の概念を使って対象を整理し、どのような新たなサービスの可能性があるのか、また、それらを公的に支援することの必要性についての議論です。交通の分野では、日々、関連技術が更新されていますが、提案に含まれる新たな要素が移動の本質にどう影響するのかを考えるきっかけになれば幸いです。

WS
2

エキサイティング・シティ・オオサカをどう実現するか

座長: 山口 敬太氏
京都大学 工学部地球環境学
兼工学研究科准教授
参加者: 25名

本ワークショップでは、多様な人材の出会い・交流の場としての都市、また、イノベーション創出の場としての都市の魅力を高めるために、いかに豊かな都市空間体験やワクワク体験を実現し、ビジネスの実装を図るか、というテーマを掲げた。なかでも十分に活用されていない都市の空間資源に着目し、道路・鉄道・河川・インフラ施設などの都市空間の立体利用と合わせて、都市空間の活用可能性を議論した。その成果として、四つの班から、(1)天王寺駅西部エリアにおける鉄道敷の立体的空間利用による「みどりの核」の提案、(2)中之島の河川水面上の浮島プロムナードと水上ベースの提案、(3)大阪西部地域における都市型ロープウェイの敷設と中央卸売市場再整備の提案、(4)上下水道施設(中浜下水処理場・柴島浄水場)上面を活用したまちづくりの提案、が示された。いずれもこれからの大阪の新たな都市づくりの可能性を切り拓く斬新なアイデアや制度提案が盛り込まれ、大変興味深いものになった。

WS
3

都市部の再生可能エネルギー源を探せ!循環型ゼロカーボンCityへの道

座長: 鍋島 美奈子氏
大阪公立大学大学院 工学研究科教授
参加者: 20名

WS3では、最初の半年を「テーマを掘りおこし」期間として、最新技術の動向を調べたり、参加者20名のお互いの興味の方角性を知ることから始めました。2023年4月の第5回会合では、それぞれの専門性や得意分野を活かしたチーム編成をおこない、Aチーム(制度・教育・普及)、Bチーム(新技術調査)、Cチーム(効果試算)のメンバーとリーダーが決まりました。第6回以降の会合ではチームリーダーが中心となり、テーマの核心にせまる議論が展開され、数回の全体会合を経て、2023年10月の第8回会合で一つの方向性が示されました。循環型脱炭素社会の構築に寄与するだけでなく、それが広く社会に認知されるような提案であるべきとの共通認識のもと、映画「Back to the future」に登場するタイムマシンのような厨芥ごみをエネルギー源として動く乗り物を提案し、その効果試算や普及に向けての課題などを検討することになりました。最終的には、参加者一丸となり、科学的根拠に基づきつつも夢のある提案をとりまとめることができました。



ワークショップ報告 リーダーズコメント

WS1 価値変化に伴う移動の本質を再考する



齊藤 政徳氏
阪急電鉄株式会社

公共空間と交通という観点で、大阪市の水辺開発について提案しました。CITÉさろんを通じ、様々な企業の方と見識を深めることができました。吉田先生、事務局の皆様に感謝申し上げます。



水谷 友紀氏
関西電力株式会社

私たちは自動運転をテーマに、大阪を、大阪らしく盛り上げるためにディスカッションを重ねてきました。いかに、ウォークブルなまちと自動運転を共存させるかに知恵を絞りました。



林 恒志郎氏
三井不動産株式会社

昨今様々なMaaSが提供され、利便性は向上しているはずなのに、どこかややこしくて使いこなせていないなんてことはありませんか?多彩なメンバーとともに、事業者へのヒアリングや視察を重ね、理想のMaaSと都市の在り方について議論しました。

WS2 エキサイティング・シティ・オオサカをどう実現するか



上田 智生氏
大阪ガス株式会社

D班はインフラ施設の高度立体利用によるエキサイティング・シティ・オオサカの実現を目指しました。提案を完成させることができ、メンバーや山口先生、事務局のみなさまなど関係者の方々に感謝いたします。



前川 壮太氏
南海電気鉄道株式会社

「エキサイティング」「立体都市」といったテーマを掛け合わせることにメンバー一同頭を悩ませたが、ハードのまちづくりに物語を持たせる大切さを、議論やヒアリングを通じて改めて感じる機会となった。



片山 智也氏
NTT都市開発株式会社

水都大阪の魅力を活かしたエキサイティングシティを具現化する作業は、AI技術の助けを借り、創造性を膨らませる試みであり、その過程で得た洞察と可能性は非常に刺激的でした。



中尾 賢一郎氏
西日本旅客鉄道株式会社

山口先生の講義や他班のアイデアに刺激を受けて自由な発想をし、メンバーが有する知見でそれらを再構築するというWSを通じて、まちづくりという営みの解像度が上がったように実感しています。

WS3 都市部の再生可能エネルギー源を探せ!循環型ゼロカーボンCityへの道



吉森 裕樹氏
阪急阪神不動産株式会社

通常業務では携わることのないテーマの中で、どう活躍出来るかと心配していましたが、「大人の自由研究」と言われた言葉の通り、少し学生の頃を思い出するような懐かしい気持ちで楽しく取り組みました。



杉垣 直哉氏
阪神電気鉄道株式会社

環境面に加えて防災面にも意義を見出しながら「社会的評価」「教育/啓蒙」についてアツク議論できました。今回CITÉさろんを通して得た【価値観・経験・絆】は、自身の大きな財産となることを確信しております!



山田 恭平氏
日立造船株式会社

厨芥ごみのバイオガス化に関わる新技術チームを担当しました。メンバー各位、ほんの少し馴染みの薄いお題だったため様々な方から知見を授かり、協力しあって取り組みました。楽しかったです。

さろんトーク

巽好幸先生の「美食地質学」を通じて、関西の食文化が、地域の自然や風土に、深く関わっていることを学びました。

12
20
Wed

近畿文化圏の魅力再発見： 美食地質学からのアプローチ

2023年12月20日(水) 16:00~17:30
講師：巽 好幸氏
神戸大学名誉教授、ジオリブ研究所所長
会場：AP大阪淀屋橋

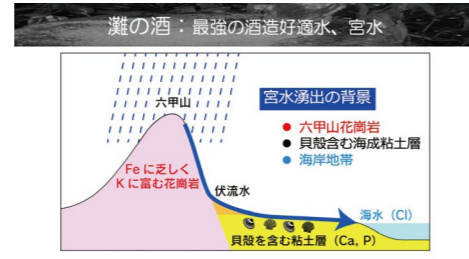


この場所が選ばれたのは、鉄分の少ない地質が醤油づくりに適していたからだそうです。灘の酒に欠かせない宮水は、六甲山系の花崗岩と沿岸の貝殻を含む粘土層が相まって形成された近畿では珍しい中硬水であり、塩分やミネラルに富んでおり、麹・酵母の活性化する最強の仕込み水なのだそうです。



巽先生はこれらの研究を「美食地質学」と命名され、その地域に特徴的な食材、料理を育む自然、風土がいかに成立したか、その風土の中で、人々がどのように特有の文化を育んだのかを研究されています。近年は、著作やテレビ出演を通じて、自身の研究を幅広く啓蒙、発表されており、関西だけでなく、様々な地域のシビックプライドの醸成に貢献されています。我々も改めて、関西圏の価値を、美食を通じて再発見し、知見とヤル気を高めていきたいと思えます。

(研究活動委員会：水方)



和食の真髄「関西出汁」は変動帯からの賜物



なぜ日本では獣肉出汁文化が発達しなかったのか？
その原因は水にあります！

和食に欠かせない昆布と鰹節の出汁。この出汁の旨味成分はグルタミン酸、イノシン酸であり、効果的に抽出するには軟水が望ましい。

日本は世界でも珍しい、険しい山地と急流の多い地形であり、それがミネラル分の少ない軟水を生み出している。特に関西の水は日本を代表する超軟水であり、独自の関西出汁を用いた食文化が発展した。

講師のジオリブ研究所の巽好幸所長は、ご専門のマグマ・地質学を応用して、日本の食文化を長年研究、啓蒙して来られました。今回のさろんトークは、圏域研究の一環として、世界に誇る関西の食文化が、実は地質と深い関係を持ち、揺るぎない地域のアイデンティティをもたらしていることを、様々な科学的根拠を持って示して頂きました。他にも、色々なお話を頂きました。瀬戸内海の高潮が魚を筋肉質に育て旨味を引き出しているからであり、その原因は瀬戸内海の襞のような地形による、それを齎したのは、300万年前のフィリピン海プレートが斜め沈み込みによるものだとされています。和食を支える醤油は、和歌山の湯浅が発祥なのですが、

自主活動プログラム

圏域の郊外の「聖地」の代表として、
阪神甲子園球場視察を、童心に帰って楽しみました。

1
9
Tue

自主活動プログラム「甲子園球場視察」

2024年1月9日(火) 15:00~17:30
会場：阪神甲子園球場

圏域研究の今年度のテーマである郊外に合わせて、阪神甲子園球場を視察しました。昨年のNPB日本シリーズで見事日本一に輝いた阪神タイガースの本拠地であり、高校野球の聖地でもある甲子園球場。あまりの存在感に、関西以外の方は西宮にあることがあまり知られていない超有名な郊外施設です。阪神電気鉄道様の小原部長、阪神園芸様の久保田社長のお計らいにより、前半はスタジアムツアー、後半は甲子園歴史館を視察しました。スタジアムでは、普段中々見ることのできない、ブルペンやグラウンドを案内頂きました。グラウンドはアメフトの甲子園ボウル終了後の土の入れ替えが行われている真っ最中という貴重なタイミングで、阪神園芸様のハイテクを垣間見ることができました。ブルベ

9
25
Mon

プロジェクト見学会

2023年9月25日(月) 15:00~17:30
視察先：なんばパークスサウス

2017年頃にプロジェクトがスタート、足掛け7年で開業しました。センタラグランドホテル大阪、パークスサウススクエア(オフィス)、ホテル京阪なんばグランデの3棟で構成されています。ニッピ様の土地を南海電気鉄道様が借地して3つに分け、それぞれのSPCがビルを建設、運営するスキームです。南海、大成、センタラ以外に、関電不動産開発様、日本政策投資銀行様が事業参画しています。地区計画で南北を貫通するデッキを整備したり、低層部の外装をタイルのデザインで統一するなど、地域全体の一体感を意識した開発であり、それが「なんばパークスサウス」の名称にも表れています。

センタラグランドホテル大阪は、バンコクを拠点に世界で50以上の施設を展開し、2023年に開業40周年を迎えたタイの著名なホテルチェーン「センタラホテルズ&リゾーツ」の日本第一号店です。設計施工は大成建設様で、内装設計には日建スペースデザイン様等が参加しています。客室は515室で、27~30㎡が主体。グレードはアッパーアップスケールで、インバウンド向けのサービスが充実しています。8つのレストラン&バーはルーフトップバーやセルフサービスのバーなど、遊び心あふれる魅力的なラインアップです。現在のADR(客室単価)は3万円程度、稼働率は75%、国外比60%で、主な利用国は韓国、タイ、米国、中国、台湾だそうです。内装はタイと日本の美と文化の融合がテーマだそうで、色ん

なモチーフが取り入れられたカラフルで楽しいデザインとなっています。上層階の26~31階は富裕層対象のクラブフロアで、専用ラウンジも設けられています。ホテル京阪なんばグランデも含めて、インバウンドの利用率が高い複合開発となっており、独特のエキゾチックな雰囲気が、ミナミの街並みと相俟って、とても魅力的なエリアと感じました。我々も応援したいと思えます。

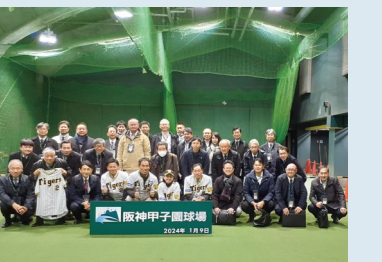
(研究活動委員会：水方)



んではユニフォームを着ての記念撮影など、いつも以上にはしゃぐメンバーが印象的でした。甲子園歴史館は22年3月に拡大リニューアルしました。球場の外野席下と、隣接する「甲子園プラス」という商業施設の一部に展開しており、球場エリアは高校野球、プラスエリアは阪神タイガースの展示です。コンテンツは本当に盛沢山で、1時間では全く足りません。高校野球をテーマにした漫画のコーナー、タイガースヒーロー列伝が個人的には刺さりました。バックスクリーンビューも、寒さが気にならないくらい、気持ち良かったです。視察後の交流会は甲子園球場内のプレミアムラウンジを特別に貸し切り頂き、名物甲子園カレーをはじめとする、ここならではのメニ

ューを堪能しました。半分童心に帰りつつ、これだけの郊外施設を維持、発展させ続ける、関西ならではの鉄道事業者と地域コミュニティの強さを改めて感じる事ができました。

(研究活動委員会：水方)



圏域研究会 報告

2021～22年度の前半は三大都市圏の比較から京阪神都市圏の優位性を再発見し、「幸福実現圏域の実現をめざす」と目標設定しました。今年度は、京阪神都市圏の郊外の可能性の深耕をテーマに、現地視察等を通じて、都市と外縁部をつなぐ「郊外の現状と可能性」について深掘りします。

9 **2023キックオフミーティング**
2023年9月27日(水) 16:00～17:30
会場:伊藤祐クリエイティブセンター
リアル&オンライン開催

- (1)2023年度圏域研究会「活動計画案」について
／三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
- (2)基調講演 青木 嵩氏
大阪大学大学院工学研究科
地域総合工学専攻
建築・都市人間工学領域 助教



▲講師:青木 嵩氏

郊外を「郊外」で語らない

～京阪神都市圏の郊外をミガク先に見える未来社会～

2023年度の圏域研究会は2021～22年度の結果を踏まえ、幸福実現圏域における郊外の可能性の深耕をテーマに視察や関係者とのディスカッション等を通じて深掘りし、郊外の可能性についてのイメージを共有するとともに、現在郊外において生じている現象を踏まえ、幸福実現圏域の実現に向けたこれからの郊外のあり方や、その実現に向けて関係事業者が取り組むべき方策について議論し検討を深める計画とする。

視察の候補として、(1)郊外と農村の接続、(2)働く場としての郊外、(3)鉄道事業者が開発してきた歴史的な重層性のある郊外の3つのテーマで候補地を検討し、各テーマにおいて知見をお持ちの有識者を講師として迎えて議論を深める。また会員企業の鉄道事業者にも協力を得て、郊外の今昔と未来を考える。

大阪大学の青木嵩先生をお招きして郊外研究についてご講演頂き、意見交換を行いました。

郊外という旧来からの認識を変え、一律な概念としての「郊外像」で見通さないという視点で、多様な郊外の現状分析について様々なデータを元に講演をいただいた。

- I. 郊外の変容
- II. 郊外(住宅地)の分化
- III. もとめられる「まち」の姿とは?
- IV. 幸福実現圏域に向けた問題提起

(研究活動委員会:鬼澤)



12 **第1回郊外調査**
「阪神甲子園筋編」
2023年12月19日(火) 10:30～16:15
講師:水野 優子氏(武庫川女子大学生生活環境科学部 准教授)
会場:武庫女ステーションキャンパス レクチャールーム

- (1)10:00～10:30
旧甲子園ホテル見学(オプション)
- (2)10:45～12:00
水野 優子氏(武庫川女子大学 准教授)ご講演
～阪神電鉄による歴史的な重層性のある「甲子園開発」を学ぶ～
会場:武庫女ステーションキャンパス レクチャールーム
(阪神電鉄「鳴尾・武庫川女子大駅」1階)
- (3)12:45～16:15 まちあるき
阪神電鉄様のアテンドによる要所を解説いただきながら甲子園筋開発の遺構の視察を行った。



▲講師:水野 優子氏

阪神電鉄様が大正時代、同社の威信をかけて武庫川支流・旧枝川廃川敷をリゾートや高級住宅街として開発してきた「甲子園筋開発」の歴史等

阪神電鉄様のアテンドによる要所を解説いただきながら甲子園筋開発の遺構の視察を行った。

・阪神電鉄「鳴尾・武庫川女子大駅」の説明を頂き、「甲子園駅」まで電車で移動。競馬場までのメインストリートだった学文路と、河川大改修の名残が分かる枝川筋を路線バスにて南下。競馬場→スポーツ施設→海軍飛行場→住宅団地と姿を変えていった浜甲子園団地の脇を抜けながら浜甲子園運動公園へ。浜甲子園運動公園で鳴尾球場や初代阪神パークの遺構を視察。

・甲子園浜から「健康住宅地」の名残を留める「浜甲子園倶楽部会館」、路面電車の痕跡をたどりつつ建て替え前後のコントラストがわかる浜甲子園団地を横切りながら、武庫川女子大学附属中高へ。武庫川女子大学附属中高芸術館(旧鳴尾競馬場貴賓館)を見学。

・路線バスにて甲子園筋を北上し、甲子園の五番町等の高級住宅街の名残をたどりつつ、阪神電鉄を超えて北郷公園までを視察。

(研究活動委員会:鬼澤)



ソトから見た大阪研究会

今年度は、昨年度行ったアンケート結果を元に「暮らしの中の屋外空間」「全世代が活躍するSDGsなまちづくり」「空間に風を吹き込むコミュニティの力」の3つのテーマで活動を行いました。

■福岡、奈良での現地視察・ヒアリングを行いました

日時:2023年8月4日(金)
◇福岡市東区千早「ちはや公園」
(公園長 上野敬之氏)



複合商業施設「ガーデンズ千早」と併設された、民設民営の公園でのコミュニティづくりについて視察しお話を伺いました。地域の人を巻き込み、まちの人が自発的に活動する場づくりが実現していました。

◇うきは市「うきはの宝」(代表 大熊充氏)
75歳以上の女性の働く場として、「ばあちゃん食堂」「ユーチュー婆」などの企画を行ってきたうきはの宝株式会社に伺いました。多世代が活躍できる仕組みができており、今後のモデル化が期待されます。

日時:2023年8月21日(月)
◇生駒市「まほうの다가しやチロル堂」(共同代表 石田慶子氏)
これまでの福祉の仕組みやこども食堂などの枠を超え、様々な子どもたちが集まる場となっている駄菓子屋「チロル堂」の視察を行いました。大人が気軽に寄付できる仕組みを通して、子どもたちご自慢の場づくりが行われています。



■SOTO会を実施しました

日時:2023年11月2日(木) 16:00～18:00
会場:QUINTBRIDGE 参加者数:36名
「まほうの다가しやチロル堂」共同代表の吉田田タカシ氏をゲストに招き、CITÉさろん会員企業を対象としたトークライブと交流会を実施しました。アートスクール「アトリエe.f.t.」や「トーキョーコーヒー」の活動について楽しくお話を伺い、「コミュニティを作っていると思わせない」コミュニティづくりや、企業と小規模なプレーヤーの役割分担について意見交換しました。



これまで・これからのソト研の活動詳細についてはコチラ! ▶
ぜひご確認ください!

ソトからみた大阪研究会
ホームページ(会員限定)
<http://sotoken.citesalon.jp/>

今後の主なイベント・スケジュール

2024-2025年度CITÉさろんWORKSHOPが始まります!

◆WS1
交通関連施設の
公共性



座長:吉田 長裕氏
大阪公立大学大学院
工学研究科准教授

◆WS2
立体的に都市を
リ・デザインする



座長:山口 敬太氏
京都大学 工学部地球環境学
兼工学研究科准教授

◆WS3
Green,Food,Energy,
Water and Wasteの
観点から都市生活の
Well-beingを考える



座長:鍋島 美奈子氏
大阪公立大学大学院
工学研究科教授

幹事研修会

2023年10月27日(金)・28日(土)
視察先:北海道北広島市 北海道ボールパークFビレッジ

2023年3月に開業したFビレッジは約32haの広大な敷地を対象に、北海道日本ハムファイターズの新球場「エスコンフィールド HOKKAIDO」を核に商業、宿泊、業務、住宅、保育施設、クボタ様の農業学習施設などが複合されたまちです。

当日は新千歳空港から現地到着、Fビレッジ内で昼食後、(株)ファイターズスポーツ&エンターテイメント事業統括本部の柳下部長より「ボールパークを活用したまちづくり」をテーマに講話を頂きました。北広島市への進出経緯、開発における多様な企業とのコラボレーション、スタジアム建築の概要や建設の苦労話、周辺地域との交流やコミュニティづくりへの取り組みなど、多岐にわたる充実した内容を学習することができました。開発の中心を担う北海道日本ハムファイターズは「Sports Community」を球団理念とされており、野球観戦だけの施設ではなく、ファン、パートナー、地域の方々が一緒になって、地域社会の活性化や社会への貢献につながる「共同創造空間」「世界がまだ見ぬボールパーク」をめざして取り組まれた開発ストーリーに、皆さん感銘を受けられたのではないのでしょうか。

また、お楽しみスタジアム見学は、当人気No.1!のファイターズガールの案内で、雄大なフィールド、工夫された客席ゾーン、スポンサー企業のラウンジ、そして「プレミアムツアー」でしか入れないホームチームエリアのロッカールームや新庄監督のVIPな監督室などを体感することができました。

その後は札幌市、すすきのに移動、かに料理専門店交流会を開催し、幹事研修会の目的の一つである「懇親」をしっかりと深めることができました。(2次会、3次会と懇親を深め続けられた方も多数おられたようですが…詳細は割愛します)

今回は遠方での開催となりましたが、注目のFビレッジということもあり、26名という多数のご参加を頂き、非常に充実した幹事研修会になりました。ご参加頂いた皆さま、準備に奔走頂いた事務局、総務委員会の皆さまに改めてお礼申し上げます。

(総務委員会:橋本)



国内視察研修会

2024年3月1日(金)・2日(土)
視察先:岐阜市

岐阜市中心部のまちづくりの様々な取り組みについて視察研修を行い、初日は45名、翌日の視察及び親睦ゴルフ会には15名の方にご参加頂きました。

岐阜市は人口約40万人、岐阜県の県庁所在地でありながら、市中心部を鶯飼で有名な清流長良川が流れ、緑豊かな金華山などの自然、岐阜城とその城下町としての歴史が豊かに残るまちです。当日は岐阜市様の全面的なご協力の下、柳ヶ瀬エリアのリノベーションまちづくり拠点「やながせRテラス」を岐阜市にぎわいまち公社・白橋様に、岐阜市のセントラルパークとして再整備された「金公園」、同時に完成した市街地再開発事業「柳ヶ瀬グラスル35」、建築家・伊東豊雄氏の設計による図書館「みんなの森 ぎふメディアコスモス」を岐阜市職員の皆様によりご案内、ご講演を頂きました。また、これらの視察場所間の移動では、段階的に実証運行が継続されている自動運転バス「GIFU HEART BUS」を体験しました。真っ赤な可愛らしいデザインの10人乗りのバスにハンドル、アクセル、ブレーキはなく、非常時に備えてオペレーターが1名乗車はしているものの、基本的には文字通り「自動運転」で安全に運行され、まちなかの貴重な移動手段として、市民の認知や利用も進んでいるとのことでした。

地方都市に共通する人口減少や中心部の空洞化に苦しみ中、柳ヶ瀬エリアでの「民間主導、行政支援」による独自の官民連携まちづくりの取り組み、行政による市街地再開発事業の推進、道路や公

園など公共空間の魅力化、子育て環境、健康づくり、歴史や文化を育む公共施設の整備、自動運転バスの導入による生活利便性向上など、「住みやすいまち」としての新たな岐阜の姿をめざして多様な取り組みが官民で進められていることを、今回の視察研修全体を通して深く学ぶことができました。

また、夜の交流会では、岐阜市のまちなかで賑わいを見せる「玉宮エリア」の郷土料理店で会員相互の懇親を深めた後、2次会(+α)には岐阜市谷山副市長にもご参加頂き、都市間での官民連携を深める貴重な機会となりました。

(総務委員会:橋本)



第2回親睦ゴルフコンペ

2023年12月2日(土)
随縁カントリークラブ 西神戸コース



第2回親睦ゴルフコンペは、名匠R・ボン・ヘギーの設計、ホールごとに多彩な表情を見せる戦略性の高い18ホール、眼下に明石海峡大橋から淡路島にかけての雄大な景観が望める「随縁カントリークラブ 西神戸コース」で開催しました。プレイ環境と共に、最寄りICからクラブハウス前までのアクセスの近さは関西圏2位!(ゴルフ場調べ)という利便性の高い会場でした。

12月開催となりスタート時こそ肌寒い状況でしたが、終日天候に恵まれ、雄大な景色を楽しみながら快適にラウンドすることができました。今回のコンペもCITÉさろんの多世代交流の貴重な機会となることをめざし、会員各社の幹事、指定代理人に加え、CITÉさろん顧問、ワークショップメンバーにも幅広くお誘いした結果、老若男女、3組11名にご参加頂き、一日を通して会員相互の親睦をしっかりと深める機会となりました。

お忙しい中ご参加頂いた皆さま、開催準備にご対応頂いた事務局、総務委員会の皆さまに改めて感謝申し上げます。

(総務委員会:橋本)

新入会企業のご紹介

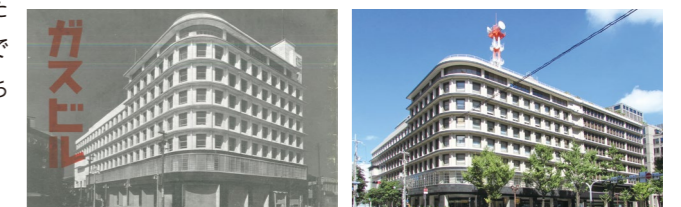
大阪ガス都市開発株式会社

今年度(2023年10月)から入会させて頂きました、大阪ガス都市開発でございます。弊社は、賃貸マンション「Urbanex(アーバネックス)」シリーズや分譲マンション「SCENES(シーゼンズ)」シリーズ及び賃貸オフィスビルの開発、京都市サーチパーク地区などの地域開発、不動産の管理・運営などの不動産サービスの提供など、様々なフィールドでお客さまの快適・便利・安心の向上に資するサービスをお客さまと共に創り上げ、期待に応え続けることに日々挑戦しております。

Daigasグループにとってシンボルとなる大阪ガスビルが完成したのが1933年3月。これまで90年に渡り御堂筋と共に時を刻んでまいりましたが、これからも変わらずガスビルと共に大阪のまちに貢献してまいりたいと思います。皆様ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



尾崎 啓氏
大阪ガス都市開発株式会社
アセット事業部 第1開発部長



Member's List

会員リスト

計54社 (50音順)

Event Calender 2023年度 CITÉさろん イベント・カレンダー

■2023年度

9/8	金	15:00	◆2022-2023年 WS2 (第6回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
9/13	水	15:00	◆2022-2023年 WS1 (第6回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
9/21	木	16:00	◆第1回大阪都市格研究会 体験&セミナー	分科会・広報	大阪府立中之島図書館 別館「多目的スペース3」
9/25	月	15:00	◆プロジェクト見学会	研究活動	セントラグランドホテル大阪 (なんばパークスサウス内)
9/27	水	16:00	◆園域研究会 キックオフミーティング	研究活動	伊藤佑クリエイトセンター
10/17	火	17:00	◆第1回トークセッション	広報・分科会	大阪府立中之島図書館 別館「多目的スペース3」
10/23	月	16:00	◆10月定例幹事会	総務	コンファレンスプラザ御堂筋 ABルーム
10/24	火	15:00	◆2022-2023年 WS3 (第8回)	分科会	10ブレース
10/27	金		◆幹事研修会	総務	北海道北広島市 北海道ボールパークFビレッジ
11/2	木	16:00	◆ソトから見た大阪研究会 SOTO会	研究活動	QUINTBRIDGE
11/7	火	16:00	◆常任幹事会	総務	CITÉさろん事務局
11/8	水	15:00	◆2022-2023年 WS2 (第7回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
11/17	金	15:00	◆第2回大阪都市格研究会「こーばへ行くこう!」 実体験WS つなげるオープンファクトリー	分科会・広報	第1部：共和鋼業株式会社工場 第2部：MOBIO集合後、クリエイターズプラザ技術交流室A
11/29	水	15:00	◆2022-2023年 WS1 (第7回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
12/2	土		◆第2回親睦ゴルフコンペ	総務	随縁カントリークラブ 西神戸コース
12/4	月	15:30	◆プロジェクト見学会	研究活動	セントラグランドホテル (なんばパークスサウス内)
12/5	火	17:00	◆第2回トークセッション	広報・分科会	北浜ビジネス会館 3階大型室
12/14	木	15:00	◆2022-2023年 WS3 (第9回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
12/19	火	10:30	◆園域研究会 第1回視察会	研究活動	甲子園周辺、武庫女ステーションキャンパス レクチャールーム
12/20	水	16:00	◆12月定例幹事会	総務	AP大阪淀屋橋 4階 北Bルーム
1/9	火	15:00	◆さろんトーク	研究活動	阪神甲子園球場
1/18	木	15:00	◆自主活動プログラム	研究活動	阪神甲子園球場
1/19	金	14:30	◆常任幹事会	総務	CITÉさろん事務局
1/19	金	14:30	◆2022-2023年 WS2 (第8回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
1/25	木	15:00	◆2022-2023年 WS3 (第10回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
1/31	水	14:30	◆2022-2023年 WS1 (第8回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
2/6	火	16:00	◆第17回CITÉまちづくりシンポジウム	広報・分科会	ホテル阪急インターナショナル 6階瑞鳥
2/14	水	16:00	◆常任幹事会	総務	CITÉさろん事務局
2/19	月	8:00	◆常任幹事会	総務	オンライン
2/20	火	15:00	◆2022-2023年 WS3 (第11回)	分科会	10ブレース
2/28	水	14:30	◆2月定例幹事会	総務	AP大阪淀屋橋 4階 北Bルーム
3/1	金		◆ソトから見た大阪研究会 報告会	分科会	
3/1	金		◆国内視察研修会	総務	岐阜市
3/7	木	13:30	◆園域研究会 第2回視察会	研究活動	東北ニュータウン
3/12	火	15:00	◆常任幹事会	総務	CITÉさろん事務局

編集後記

今回インタビューは、公立大学法人大阪の理事長の福島様です。大阪公立大学の将来を熱く語って頂きました。2月シンポジウムでは「大阪の再定義」に注目が集まりました。大阪が変化する兆しを感じます。コロナ禍も過ぎ、以前に近い形態でシンポジウム等が開催出来るようになりました。コロナ禍を機に広がったzoom等の利便性は委員会開催時で大きく感じ、シンポジウム等大規模会議はリアル開催が良いように感じます。会議規模と外部配信は反比例の関係なのか?と感じた1年間でした。

(事務局)

シテ・レトル

2024年 3月号 Vol.89

発行/CITÉさろん事務局

〒541-0055 大阪市中央区船場中央2-2-5

船場センタービル5号館2階

一般財団法人 都市技術センター内

企画/CITÉさろん広報委員会

編集/ADTOWER